

“スキンケア・フレグランス”化粧品国内市場を調査（1）

—2012年—

- ◆スキンケア市場 スペシャルケアで高機能商品投入相次ぐ。低迷続いた百貨店ブランドも需要回帰
- ◆フレグランス市場 若年層をターゲットに需要開拓。円高で縮小も今後は下げ止まり拡大へ期待

総合マーケティングビジネスの株式会社富士経済（東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 阿部 界 03-3664-5811）は、2013年2月から6分野44品目の化粧品の国内市場について、3回に分けて調査を行う。その第1回目の調査結果を報告書「化粧品マーケティング要覧2013 No.1」にまとめた。

この報告書ではスキンケア9品目、フレグランス5品目の国内市場を調査分析した。なお、第2回目ではヘアケア・ヘアメイクとメンズコスメティックス、第3回目ではメイクアップとボディケアの市場を調査分析し、順次結果を発表していく。

<調査結果の概要>

1. スキンケア市場

2012年		前年比	2013年見込		前年比
1兆	103億円	101.1%	1兆	176億円	100.7%

2012年のスキンケア市場は前年比1.1%増の1兆103億円と拡大した。東日本大震災後は一時的に買い控えも見られたが、2012年はこうした動きも一段落した。美容液やモイスチャーなどスペシャルケアに対する需要が拡大し、長らく低迷していた百貨店ブランドにも需要回帰が見られた。

モイスチャーは、オールインワンの需要拡大が貢献している。2012年のオールインワンは、セルフブランドでの投入が続き前年比3割増の485億円となった。ジェルだけでなく化粧水や乳液など液状タイプも増加している。従来は新規ブランドでの投入が多かったが、既存ブランドからの投入も増え、オールインワンを展開することでクリームやジェルの販売を終了させるなど商品の集中化を進めるケースも見られる。セルフブランドからの投入が相次いだことで、今まで拡大を牽引してきた通販ブランドの勢いが落ち着きつつあるが、2013年も2桁増となりオールインワンは500億円を突破すると見込まれる。

美容液はより高い効果が期待できる高価格商品の需要が高い。需要回帰が見られる百貨店ブランドではスペシャルケアを新規需要取り込みの柱と位置づけ、訪問販売ブランドではポーラやノエビアなどが高価格帯の美容液への注力度を高めている。抗老化やブースター（導入美容液）を中心とした高機能訴求商品の投入が相次いでおり、拡大している。

2012年のトレンドは、オールインワンへの需要シフトにより縮小が続いていた乳液は日常的な紫外線ケアが可能なUVカット機能付き（日中用乳液）が需要を獲得し前年比1.8%増になるなど、オールインワン以外にも複数の機能を兼ね備えた商品が人気となった。新たに登場した炭酸泡訴求商品も洗顔料、パック、化粧水など裾野が広がっており、2013年も引き続き動向が注目される。

なお、スキンケア市場の中で最も規模が大きい化粧水（2012年市場規模：2,370億円）は、美容液やジェルのようにとろみ感を持たせた商品が人気となっている。使用頻度が高いため価格志向も強いが、プレ化粧水や外出時用のスプレータイプなど、シーンの使い分けを提案することで新たな需要開拓が期待される。

2. フレグランス市場（並行輸入品除く）

2012年		前年比	2013年見込		前年比
336億円		98.8%	336億円		100.0%

海外ブランドの並行輸入品増加によって市場低迷が続いていたが、香りを訴求したトイレットリー商品やパーソナ

ルケア商品の増加により消費者の香りに対する意識が高まり、軽い香りのオードトワレやライトフレグランスが拡大している。ドラッグストアやバラエティショップを中心に若年層をターゲットとした低価格商品が積極的に投入され市場回復も期待されたが、円高の進行による並行輸入品の増加で2012年の市場は前年比1.2%減となった。しかし市場の縮小も下げ止まりつつあることから2013年には横ばいが見込まれる。

<調査対象>

スキンケア 9品目	洗顔料、クレンジング、マッサージ、モイスチャー、スポットケア、化粧水、乳液、美容液、パック
フレグランス 5品目	パルファン、オードパルファン、オードトワレ、ライトフレグランス、メンズフレグランス

<調査方法>

富士経済専門調査員による対象企業及び関連企業・団体等への直接面接取材

<調査期間>

2013年2月～3月

以上

資料タイトル	: 「化粧品マーケティング要覧2013 No. 1」
体裁	: A4判 274頁
価格	: 100,000円 (税込105,000円)
調査・編集	: 富士経済 東京マーケティング本部 第一統括部 第二部 TEL:03-3664-5821 FAX:03-3661-9514
発行所	: 株式会社 富士経済 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-5 小伝馬町YSビル TEL03-3664-5811 (代) FAX 03-3661-0165 e-mail:info@fuji-keizai.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ https://www.fuji-keizai.co.jp/